

第17回電気絶縁材料シンポジウム

開催にあたって

絶縁材料技術委員会

委員長 日野太郎

本年も国際的に著名な外国人特別講演者をお迎えし、また多くの斬新にして優れた論文の発表者および熱心な参加者の方々を得て、ここに第17回電気絶縁材料シンポジウムを開催する運びとなりました。本会議の開催につきましては、電気学会運営委員会並びに主催の絶縁材料技術委員会構成員の方々、さらに当技術委員会に所属する絶縁材料耐熱性試験法(委員長 金子剛氏)、絶縁材料直流・インパルスストリーミング(委員長 能登文敏氏)、団体絶縁物絶縁劣化判定試験法(委員長 福田正氏・昭59.5解散)、絶縁材料の熱刺激電流と空間電荷(委員長 日野太郎氏)、絶縁材料放射線効果(委員長 矢作吉之助氏・昭58.12解散)、油浸絶縁(委員長 田中祀捷氏)、絶縁材料耐トラッキング性(委員長 能登文敏氏)、絶縁システム複合ストレス劣化(委員長 加子泰彦氏)、極低温絶縁技術(委員長 河野照哉氏)、絶縁材料放射線複合劣化(委員長 欠作吉之助氏)の各調査専門委員会および電気学会本部事務局の方々の並々ならぬ御盡力をいただき心から深く感謝する次第であります。

本シンポジウムは昭和43年に第1回が開催されて以来毎年開かれてきており、本年で第17回を迎えました。その間毎回のように海外の高名な方々を特別講演者として招待し、海外との学問的・技術的交流をはかって参りましたが、昨今では外国からの一般講演の申込者あるいは日本に留学中の外国人研究者も加わるようになり、本シンポジウムの国際化が着実に進展して来ているように思われます。また絶縁材料の著名な専門家であり先輩指導者でもある日本人特別講演者も何人かご招待し、ご講演を願って参りました。さらに本シンポジウムと併行して、昭和46年より絶縁材料に関する若手セミナーも毎年開催され、次の時代を担う研究者・技術者の育成に大きな役割をはたし、現在すでにこれらの若手の人達にバトンタッチの出来る状態になりつつあると思われます。

今回の会議では外国人招待講演2件と特定テーマ8部門に対して53件の論文発表が予定されております。この中で11件の論文はポスターセッションで発表されますが、本シンポジウムに数年前から取り入れられたポスターセッションの発表形式も定着してきて本来の成果があげられていると考えられます。

発表される論文は絶縁材料の基礎的問題から現実の各種劣化に関するもの、さらには将来の進展を目指したテーマなどについて極めて学術的・技術的に水準の高いものであって外国人招待講演者を交えてのシンポジウムでの意見交換は、海外の情報を得るとともに我国の技術レベルに対する海外の理解を高め、国際交流の貴重な機会になってきていると考えられます。本年の外国人招待講演者としては西ドイツのブラウンシュバイク工科大学のH.C.Kärner教授とスイスのワイデマン社のH.P.Moser博士をお迎えすることができました。お二人とも当委員会の招待を快諾され、ここに厚くお礼申し上げますとともに両先生の御招待に種々御盡力いただいた関係各位に心から感謝する次第であります。

絶縁材料シンポジウムの10数年間の流れの中で、我国の絶縁材料分野の研究と技術はいちじるしく向上して来ましたが、一方半導体を中心とするエレクトロニクス技術の影響は

絶縁材料の面にも波及し、我々はエレクトロニクスに目を向けざるをえないようになって参りました。しかし、さらに一步踏み出して積極的にみるならば、我々絶縁材料に関係して来たものが取組むべきエレクトロニクス絶縁は極めて広くまた深い内容をもっているものと考えられるであります。従来の絶縁の研究と技術につながる方向をさらに発展させていくと同時に新しいエレクトロニクス絶縁技術に我々が展開していくことも極めて重要なことと思われる次第であります。このような立場で見ると、絶縁材料の動向はやはり現在1つの重要な時代にさしかかっているように思えるわけであります。

第1回より歴代の技術委員会、絶縁材料常置専門委員会あるいは絶縁材料技術委員会の委員長のもとに回を重ね、昨年の第16回まで前絶縁材料技術委員会委員長家田正之名古屋大学教授を中心に輝かしい発展をとげて来た本シンポジウムの今後の益々の進展に努めたいと心から念願するものであります。何卒よろしく御協力下されるようお願い申し上げます。

第17回シンポジウム開催にあたり、種々御盡力下された絶縁材料技術委員会構成員の氏名は下記の通りであります。(敬称略、五十音順)

〔幹事〕 田中祀捷、吉野勝美

〔1号委員〕 相原 貢、伊藤弘孝、糸原福雄、鎌田 謙、鬼頭国二、関井康雄、
関口安貞、蓬郷章郎、西松峯昭、速水敏幸、平林庄司、松葉博則、
吉田 宏、岡本英夫(昭59.6退任)、門谷建蔵(昭59.3退任)、
内藤克彦(昭59.3退任)、藤田英夫(昭58.11退任)

〔2号委員〕 加子泰彦、金子 剛、河野照哉、田中祀捷、能登文敏、日野太郎、
矢作吉之助、福田 正(昭59.5退任)

〔幹事補佐〕 岡本達希、夏目文夫

なお本技術委員会は昭和58年10月に幹事側の交替があり、前委員長、幹事、幹事補佐の氏名は次の通りであります。(敬称略)

〔委員長〕 家田正之

〔幹事〕 日野太郎、田中祀捷

〔幹事補佐〕 夏目文夫、新田義孝

また外国人招待講演者の来日に関して、種々ご協力を頂いた下記の関連各社に対し厚くお礼申し上げます。(五十音順)

昭和電線電纜株式会社、住友電気工業株式会社
大日本電線株式会社、株式会社 東芝
株式会社 巴川製紙所、日新電機株式会社
日本碍子株式会社、株式会社 日立製作所
日立電線株式会社、株式会社 富士電機総合研究所
藤倉電線株式会社、古河電気工業株式会社
松下産業機器株式会社、三菱電機株式会社